

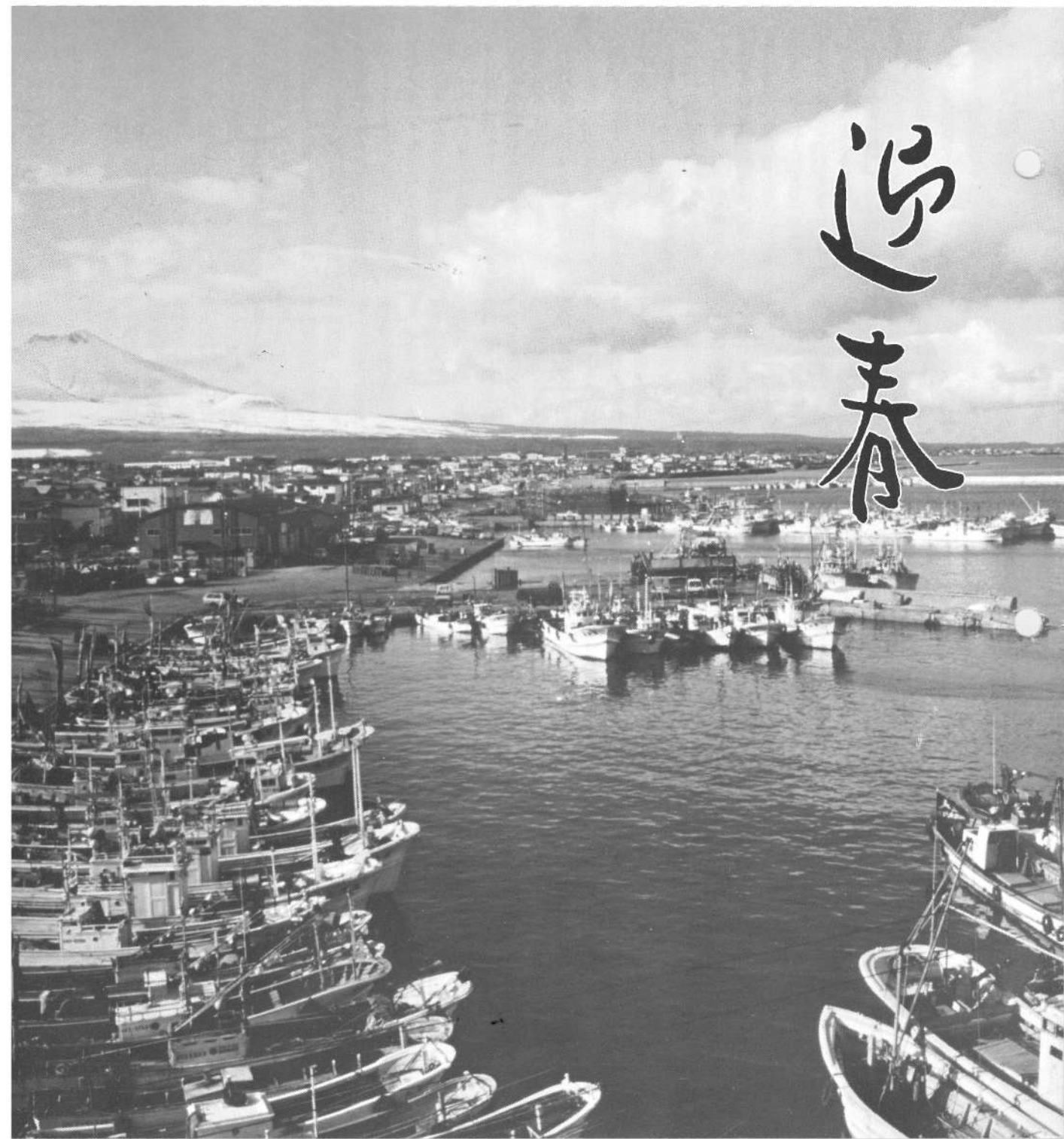
'86

1 月号

No. 190号

ついで

迎春



輝かしい新春を迎えて

鹿部町長

川村 秀次



町民の皆様、明けましておめでとございます。

輝かしい昭和六十一年の元朝を御健勝のうちに迎えられたことと心からお慶び申し上げます。皆様には平素から町政に対しまして深いご理解とご協力を戴き、この機会に改めて御礼を申し上げますと共に、本年も尚一層のご支援とご協力をお願いする次第であります。さて、いろいろな思い出を残して暮れた昭和六十年は、国におきましては防衛・貿易をはじめとする外交問題、序々に回復の兆しはみせているものの依然として先行き不安の経済問題、更には膨大な公債償還を抱える財政再建問題等緊要課題が多い割には抜本的な

解決策を見出すことのできない年でありました。

当町としての昨年度を顧りみますと大きな災害もなく平穩裡に暮れた年でありました。基幹産業である漁業においては、漁種により若干の豊凶の差はあったものの概ね好調でありました。特にスケソ漁においては、一昨年にひき続き昨年も豊漁で、お忙しい師走であったろうと思われますと共に、このように水揚げが増加した事は、漁家の皆様のご努力によるものと敬意を表するものであります。

また、漁民の皆様方が永年望んでおりました荷捌所が装いも新たに建設された事も喜ばしい事でありました。

町政においては、町民皆様切望していた鹿部小学校の改築工事が一昨年の校舎にひき続き昨年は屋内体育館の完成を見るに至り、この二ヶ年に亘る総工費は約八億六五〇〇万円に上り、超近代的な小学校に改築された訳であります。これら幼稚園、小学校、中学校と当町の学校教育施設はほぼ整ったこととなり、この恵まれた学校教育施設の中で明日の鹿部を担う人々が健全に育つことを大いに期待するものであります。

しかし、昨今の学校教育をとりまく状況は、全国的に非行・いじめ等の問題が山積し大きな社会問題となっておりますことは皆さんご承知のことと存じます。私は機会ある毎に申し上げておきますと「教育は人づくり。人づくりは町づくり」であると考えており、学校教育の荒廃がこのまま進むと正に国家、本道、当町にとって由々しい問題にまで発展しかねない事と深く危惧しており、このような事が絶対に起きない事を願うばかりです。

一方、町民の方々より望まれておりました山村広場工事も昭和五十七年度に着手し、六十年度において駐車場、遊具広場、電気工事等の工事を終え、完成をみました。本年からはこの施設の有効利用のため各種行事を行いたいと思っておりますので、町民皆様の積極的な参加をお願い申し上げます。

町民生活の面では、かねて来、大きな懸案であった医療体制の整備が整いました。これは工藤医院閉院後、沢田先生お一人で頑張つて戴いておりましたが、渡島福祉会の特段のご理解とご協力によりリハビリ診療所において町民の一般診療も受け付けてもらえる事に相成ったものであります。昨年はまた、大正九年の第一回から数えて十四回目の国勢調査が行われた年でもありました。

調査員をはじめ町民各位のご協力により調査も無事終える事ができ、昨年十二月には速報公表もあり、当町においては、一三二一世帯、五一〇七人という調査結果となり、前回の昭和五十五年に比べ九六人の増となった訳であります。近隣町村が過疎化で悩んでいる中において、僅か九六人ではありませんが増えたという事は意義ある事で、当町がいかに住みやすい町であるかが立証されたものと思えます。

ここで昭和六十一年を展望するとき、公債の発行残高が六十年度末には一三三兆円にも達するといわれているのが国財政においてその利払い等に必要経費も六十年度予算においては、予算の二十％弱を占め歳出項目中で最大なものとなっております。国においては「財政の中期の展望」により特例公債依存体質からの脱却と公債依存の引下げのため大変厳しい国家予算編成を行ったものであります。こうした国の財政方針は、地方自治体にもしわ寄せされ、町の昭和六十一年度の予算編成も又超緊縮型の予算にならざるを得ないものであります。こうした厳しい状況ではありますが、行政を託されている為政者として私の持てる力を全て出し切り、この難局を乗りこえる所存であります。

国においては、数年前から臨時

行政調査会の答申を受けて行財政改革を行っており、近時地方行政においても地方行革を余儀なくされつつあります。このようなことから当町においても昨年行政改革推進委員会の設置を願い答申を受けた次第であります。今後は、その答申を尊重し、徹底した歳出予算の見直しを図り、不必要な経費を削減する減量行政を推し進め新時代に即した地域づくりに邁進する決意を一層新たにするものであります。

来たるべき新年度においては、あくまでも住民本位の町政を基本理念とし、既に策定しております第二次鹿部町振興計画に基づき事業執行をして参る考えであります。所謂漁業振興につきましても漁協と緊密な連携をとりながら一層の推進を図り、基盤である漁港整備、各魚礁の設置等の施策を推し進めて参ります。

他に生活環境整備、福祉関係につきましてもこれまで進めてきた諸制度を充分活用しながらいささかも後退することのないよう努める所存であります。

新しい年を迎えて所信の一端を申し上げます。本年も変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたしますと共に皆様のご多幸とご健勝を祈念し年頭のあいさついたします。

昭和六十一年 元旦

年頭のことば

鹿部町議会議長

佐藤 友一



広報しかべ

(3)

輝かしい新春を迎えるに当たり、町議会を代表して町民の皆様につつしんで新年のごあいさつを申し上げます。

浅学非才な私が、昨年二月、町議会においてはからずも議長の重責を負うこととなり、いまさながら、その使命の重大さを痛感いたしております。

その後、私は、議会の円滑な運営と、町民の皆様の声が町政に反映されるような状況づくりのためにひいては町政の伸展のため努力を続けてまいりました。

昨年は打ち続く景気の低迷などによって地方自治体を取巻く情勢は非常に厳しい時代に入っておりますが、これを悔ることなく、又萎縮することなく私共議員は町長共々誠実に忠実にそして実行の三実主義を旨として第二次鹿部町振興計画に基き漁業の振興を始め、陸上産業の推進、生活環境の整備、教育文化の向上、特に念願でありました小学校屋体の改築等積極的に推進して参つたつもりであります。おかげをもちまして大過なく越年することが出来ましたのも、これひとえに町民各位のご支援とご協力の賜であると心から感謝の意を表する次第であります。

一方、地方行政を取り巻く環境は、経済の低成長が続く中で、高齢化社会への移行、高度情報化社会への進展が急速に進むなど様々な分野において大きな変貌を遂げつつあります。

このような情勢に対応し、ますます多様化し、二十一世紀を展望する新しい時代の要請にこたえる個性豊かな活力ある地域社会を実現することが、地方行政に強く求められているものと考えます。

こうした中で、町民の皆様は町政に対する要望は、ますます高まっております。このような状況の中で迎えた昭和六十一年は、鹿部町にとって極めて重要な年になると思われれます。

即ち交付税及び補助金等の大幅な減額を余儀なくされ、明年度においてはさらに巨額の財源不足を

生じることが必至であり、重大な危機に直面しております。このような厳しい情勢下においては、地方自治体も当然これに即して減量経営を余儀なくされるわけですが、こういう時こそ創意工夫を凝らし行財政の効率的、合理的見直しを図りながら住民のための福祉を向上させることが地方自治の本来の姿であると考え、町民を代表する議会人としていたしましては、国、道に対しその対策を強く働きかけますとともに、執行機関と相協調して、財政の許す限り最大の行政効果をあげるため、一丸となつて努力すべき年であると思っております。

町議会は、町民の代表として、議決機関の機能を最大限に發揮しつつ町民皆様の御期待にそつよう努めてまいります。

どうか、本年もより一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。昭和六十一年が町民皆様にとりまして幸せな年でありませうとお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

昭和六十一年 元旦



つつしんで

新年の御祝詞を

申し上げます

明けまして

おめでと

ございます

鹿部町議会

議長	長 佐藤 友一
副議長	長 吉武 昭夫
総務常任委員長	長 西谷 正昭
同 副委員長	長 平沢 浩
同 委員	川村 太一
同 委員	佐藤 頼幸
産業常任委員長	毛利 武藏
同 副委員長	千葉 光夫
同 委員	川口 常行
同 委員	船橋 竹治郎
建設常任委員長	渡部 良次
同 副委員長	小田 輝次
同 委員	吉田 武雄
同 委員	高田 春吉
同 委員	川原 勝美
議会事務局長	外 職 員 一 同

鹿部町役場

町長	川村 秀次
助役	浜村 正夫
収入役	松崎 繁四郎
総務課長	橋本 健藏
民生課長	盛田 栄一
税務課長	松川 猛
企画・管財課長	岡崎 英夫
産業課長	相沢 正士
建設課長	松本 豊勝
水道課長	古城 保弘
水道課長	小田 博久
ミンク公営課長	熊谷 秋雄
鹿部町教育委員会	
教育課長	桜田 政治
学校教育課長	佐々木 成克
社会教育課長	土谷 文男
鹿部消防署	
署長	長 小玉 健
外 職 員	一 同

年頭にあたつて

北海道知事

横路 孝弘



道民のみなさん、明けましておめでとつございます。

みなさんにとって、今年がよりよい年であることをお祈りします。今年、憲法公布四十周年であり、また、「国際平和年」です。憲法の理念である平和と民主主義は、私たちが生活を営むうえの基盤です。この意義ある年を機に、さらに多くの人びとと語り合い、また、各国の人びととの交流を一層活発化して、平和と民主主義をまもる機運の醸成に努めてまいりたいと思います。そして、北海道が平和への「一粒の麦」として、世界の発展に貢献することができるとを願っております。

また、今年には、「二十一世紀へ向けての北海道づくり」の設計図ともなる、新しい総合計画策定の仕上げの年です。新時代を拓くのにふさわしいパワフルでダイナミック、かつ実効性のある計画にしていいたため、みなさんのご意見をいただきながら、さらに検討と努力を重ねてまいります。そして、だれもが仕事に喜びを感じ、どこに任んでも安心して生活ができる、生き生きとした地域社会を創造するとともに、豊かで美しい自然や風土を守り、この北の大地を自信をもって子供たちに引き継いでいきたいと考えております。

景気は緩やかに回復し、明るさを見せはじめておりますが、本道をめぐる情勢はなお厳しいものがあります。そうしたなかで、「一村一品運動」が各地域の人々の熱意と創意に支えられて根づき、村おこし、町おこしに弾みを与えているのは、たいへん心強い限りです。二百十二の市町村がそれぞれ個性ある「顔」をもち、大きく発展することを願っております。

この三月には、「第一回冬季アジア競技大会」が札幌市で開催されますが、これは、アジアの友情と連帯を深め、平和に寄与しようとする意義ある大会です。道民のみなさんとともに、ぜひ成功させたいと思います。

みなさんも、今年も健康であり

ますように。そして、北海道のこの一年が平穏で豊かでありましように。

このロマンと可能性に満ちた北の大地を、新世紀に向けて力強く切り拓いていくため、ともにがんばりましょう。

昭和六十一年 元旦

年頭のごあいさつ

渡島支庁長

寺山 敏保



明けましておめでとつございます。皆様には、輝かしい昭和六十一年の新春をすこやかに迎えられた

ことと、心からお喜び申し上げます。

私たちの住むこの地「渡島」は、道内で最も早く拓け、以来、営々たる努力によって発展を続けておりますことは、誠に御同慶の至りであります。

さて、管内の昨年の状況を顧みますと、農業については、夏季の好天続きで、水稻を中心に豊作が見込まれておりましたが、その後の長雨や病害虫などの影響を受け、平年並みの収穫に終わりました。

水産業は、イカ釣漁業の不振、コンパ製品の安値等厳しい面があった一方、サケ、マス、ホタテ貝については、予想どおりの水揚げが得られました。

商工関係を見ますと、企業倒産は微増傾向にありましたが、ようやく落ち着きを見せ、また、観光客の入込み数は、増加してまいりました。

十月には、北海道工業技術センターが着工され、渡島発展の鍵となる「テクノポリス函館」の中心的研究機関としての機能が期待され、また、道立美術館、私立大学の着工は、歴史と伝統はごくまられたこの地に新たな文化を生むものと期待されます。

以上のとおり昨年は、長く続いた不況の中、まだ厳しいとはいえず、ようやく薄日が射した年であったと存じております。

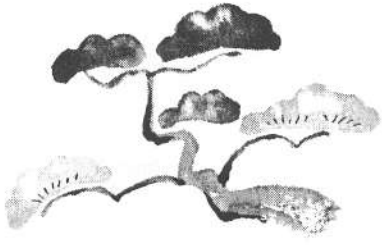
本年は、登り坂の年、二十一世紀へ向けての「基」となる年として全力をあげて努力しなければならぬ大切な年であると考えております。

一昨年から作成している「新しい総合計画」をより一層実行きと広がりを持った計画にするため、機会ある毎に自治体の首長始め、皆様から御意見、御提言をいただいておりますが、今年も引き続き、皆様と話し合い、考えを出し合つてまいりたいと思っております。

明日の豊かな渡島の創造をめざして全力を傾ける所存でございますので、皆様の一層の御理解と御協力をお願いいたします。

末尾になりましたが、新年に当たり、皆様には御健勝で御活躍されますよう祈念いたしまして、年頭のごあいさつといたします。

昭和六十一年 元旦





あけましておめでとうございませす。

昭和六十一年元旦

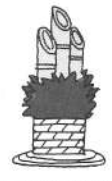
「虎は千里を行って、千里を帰る」という諺があります。一般には、勢いの盛んなこと、の例えとして用いられますが、もう一つ別の解釈があるようです。さて、その虎は何をしに千里の道をあわてて帰るのでしようか。実は、虎は自分の子供のこと、が心配で戻るのだといひます。恐ろしいものの代表のよう、に言われている虎ですが、大変に子供を大切に、するのだそうです。「虎の子」と言う言葉もこのあたりから来たのでしよう。

虎はエトの動物たちのうち、日本に棲んでいない唯一の動物です。もともと、辰(竜)もいませんが、これは想像上の動物です。虎は中国をはじめ、東南アジアなどには広く分布しています。から、エトのつくられた中国では、なじみのある動物だったのです。もともと、虎は日本で見ることができないにもかかわらず、その存在はかなり早くから知られていました。七世紀までに書かれた日本書紀にはすでにその名が出ていますし、天武天皇の

今年寅年

朱鳥元年(六八六年)には虎の皮が大陸から渡来しています。そして、大陸文化とともに、虎に関する故事、諺がいろいろ伝えられ、いまでも広く知られています。たとえば、日ごろなんとなく使う「虎視たんたん(眈眈)」をはじめ、「虎の威をかる狐」、「虎の尾をふむ」、「虎口をのがれる」などいろいろあります。いずれも虎が強いもの、危険なものとして登場しています。では虎の巻とはどういうことかと調べてみましたら、中国古来の兵法書、つまり、いくさの仕方を教える書物に由来する言葉のようでした。

ところで、最近では乱伐や焼畑農業によって熱帯雨林が減少し、森林に棲む虎の生存も脅かされています。本当に恐ろしいのは、虎よりも人間の所業だということでしょう。虎年を契機に自然保護の大切さをもう一度みんな考えてみたいものです。



ことしの抱負

ことしは寅年。十二支では三番目の年で、勢いのある年だともいわれています。そこで、トラ年生まれで、町内に住んでいる方々から、無作為に抽出して今年の抱負等をひとつ伺ってみました。

みなさんは、それぞれ新鮮な気持ちで新しい年を迎えられたことと思いますが、あなたにとって今年の決意のほどは…。

実行する年に



五年一組 奥田 歩

去年三月のはじめに新しい校舎ができて、十二月には体育館もできました。今年は、その校舎や体育館で力いっぱい勉強や運動をしたいと思います。

また、今年は六年生なので、いろんな行事や、クラブ活動などもがんばりたいです。私が、一番楽しみなのは、修学旅行です。青森に一日二日の旅行でちょっと、みじかいけれど、今から楽しみな

のです。

去年の夏休みは、家にいるひまもないくらいに、キャンプや、オリエンテーリングにいつてきました。今年もいけるといいなあと思っています。でも決めたことを、なかなか実行できません。それで今年、「決めたことを実行する年」にしたいです。

プロ野球選手めざして



五年二組 三谷直樹

六年生としてくいのない年に



五年三組 松平浩幸

ぼくは、サッカー選手になるのが夢だ。ぼくのめざす人、それは釜本さんと、奥寺さんだ。二人とも、小さい時からサッカーをやっていたそう。ぼくは、今年が、六年生。あと一年とちょっとで、中学生になる。中学に入ったら、

ぼくの去年までの生き方は、まるで、やさしくない、かいつのようだった。それは、友達がかなしんでいる時や、こまっている時、はげましてやれなかったし、そうだんにもつてあげれなかった。でも、ぼくがこまっている時やかなしんでいる時、ぼくの友達たちは、はげましてくれたり、そうだんにのつてくれた。

今年、ぼくは、今年を、小学校最後の六年生として、くいのない年にしたい。そして将来に、はげたく第一歩として、今年をふみ台にして、大きくになりたいと思う。

● ● ●

何度か何度も、やさしくなろう、やさしくなろうと思っても、すぐわすれてしまう。

そして「はっ」と気がつくんだ。今年が寅年だ、寅のようにつよく、たくましく。

寅のお母さんのようにやさしい、おもしろい気持ちを持ち、将来にむけて、はげたくんだ。

ぼくの将来は、プロ野球の選手。プロ野球のゆめをすてず、がんばるかくこです。

● ● ●

ベストを尽くして



漁協職員 伊藤善恵

私も鹿部漁協の職員となって早くも四年の歳月がすぎました。これまでこれたのも暖かく話しかけて下さる組合員の皆さん、適切な指導をしてくれた職員の皆さん、心の支えになってくれた友達の方々の皆さんのおかげだと感謝の気持ちでいっぱいです。

昨年は幸いスケソ漁が豊漁でした。私も漁協勤務の為、浜の動向は非常に気がかりで、今年も大漁でありますようにと新しい年を迎えて願っています。

今年、私の生まれ年の「寅年」二十四才を迎える年ですが、二度とない青春を悔いのないよう、何事につけても一生懸命ベストを尽くして頑張りたいと思います。

また、趣味の面でも余暇を有効に利用して旅行にでも行きたいと思っています。

今年も組合員の皆さん、職場の皆さん、友人の皆さんよろしくネ。

子育てに頑張る



主婦 高田信子

私は、生まれて育った鹿部の町で今年で三度目の「年女」を迎えました。歳月の流れは誠に早く、「光陰矢の如し」の諺のとおりだと実感しています。

特にこの数年は、子育てに追われて一年を過ごしている感じで、

毎年元旦の朝を迎えては「今こそは」と心では誓うものの、年の瀬には何をしたらだろうと反省ばかりです。

子供も来る四月には中学二年生と小学四年生になりますが、もう一頑張りしなければなりません。

しかし、昨今の学校教育をとりまく状況は、荒唐が進み非行・いじめ等の問題が全国的に広がって社会問題となっているようですが、子を持つ親としてこのような問題が一日も早く解決されることを願っています。

いずれにしても今年は、私の生まれた年の「トラ年」なので一生懸命頑張っている年にならなうと共一家四人が病氣もしないで過ごしたいと思っています。

水産行政に全力を



役場職員 大清水敏樹

今年は、私の生まれエトの「トラ年」で、三十六才を迎える年です。

早いもので、役場に勤務して、もう十三年がすぎました。その大半は水産課で、漁業振興に微力ではありますが尽くしてきました。

昨年には特にスケソ漁が好調で、資源の枯渇化の心配をしていた矢先での大漁で本当によかったと思っています。また、年々水揚げを伸ばしているホタテ養殖もすつかり定着し、水産行政に携わる者として嬉しく思います。

「とる漁業から育てる漁業へ」という言葉が言われてから久しい訳ですが、正にこれからの水産行政はこの一語に尽きると思います。

地域経済の活性化を願って



商業 松本黄吉

いろいろな思い出と共に昭和六十年は静かに暮れ行き、希望に輝く昭和六十一年の新春を迎え、今年も頑張る決意を新たにしているところであります。

今年、私のエト「寅年」で、

人工礁、ウニ礁等による漁場づくり、漁船漁業の基地としての漁港づくり、漁業後継者の育成等今年も水産振興に頑張りたいと思います。



頑張っている年に



漁業 川村豊次

四回目の年男ですから四十八才を迎える年になります。人生八十年としても、もうその中間点を過ぎ、正に実年を迎えました。

昨年は、漁の始めからスケソ漁が豊漁で、浜の活気はすごいものでした。私共商売をしている者にとつて前浜の状況は、最も気がかりな事の一つで、地域経済が活性化される事を望んでいます。

皆様のお陰をもって、私も鹿部で店をもってからちょうど二十年が過ぎ、今年は二十一年目の新たな節目を迎えることができました。この新しいステップの年、私の生まれ年の「寅年」をいい年にしたいと思っていますと共に、今年も大漁であることを祈ります。



鹿部で生まれ、今年で五回目の「とら」年満六十才を迎えました。私は、漁師で天然コンブと十数年前まではスケソ漁もしていました。幸い、一昨年と昨年は資源の枯渇化で、ここ数年不振であったスケソが大漁で浜にもしばらく振に活気がもどって来りました。昔を思い出しながら今年も大漁するようにと願っています。昨年の十月には最後に嫁いだ娘にも子供が生まれ孫が四人にふえ、春には、もうひとり生まれる予定なので、じいさん、ばあさんの出番が今年も多くなりそう、今から楽しみにしています。また趣味で始めたキノコ栽培をもっと増やしたいと思っています。何はともあれ、今年私のエト「とら」年家族全員健康で一生懸命頑張っている年にしたいと思います。

歳時記

寒中の厳しい寒さの朝、少年剣士たちが、竹力を持って道場に急ぐりりしい姿は、冬の風物詩の一つです。最近では、武道の復活でこうした姿をよく見かけるようになりました。

寒稽古



もともと、朝の街かどでそれより目立つのは、ジョギング姿。寒ジョギングという言葉はありませんが、やはり、寒いからといって忘れてはならないとばかり、寒中は、より一生懸命走る気になるようです。

寒稽古というと、最近では剣道とか柔道のこととされている人が多くありますが、武道に限らず、芸事、たとえば義太夫、長唄、清元

出初式は各自自治体ごとに行われ、日時についての決まりはありませんが、当町では毎年一月二日に行われています。



特に有名なのは、東京の出初式で、江戸の町火消しの伝統を受け継ぐ職のはしご乗りなどが披露され、テレビなどで全国に紹介されています。

「歳末たすけあい運動に」 とご寄付下さいました。

リハビリ職員との親睦団体である僚友会(会長 紙谷正総務部長)より、歳末たすけあい運動に役立てて下さいと三万円のご寄付がありました。

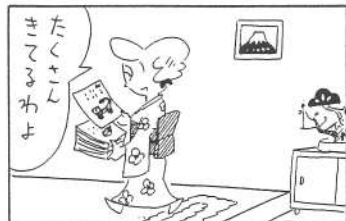
町民の皆様明けましておめでとうございます。昨年は、広報「しかべ」をご愛読いただきましてありがとうございます。不透明な時代といわれる八十年代も六年目を迎え、ますます複雑多様化社会の様相を呈している。今で、月日の歩みの早さと、自らの無能さを知らされるようです。新しい年を迎えて、今年こそみなさんに愛読していただける広報「しかべ」の紙面づくりに頑張る覚悟を新たにしております。みなさんのご協力をお願い申し上げます。

【広報係から】

●町広報をお送りします。

ご家族、又はお知りあいの方で長期入院されている方、更には以前鹿部に住んでおられて、鹿部の状況等を知りたいと思われている方を知っている人は、企画管財課広報係へご連絡下さい。町広報「しかべ」を毎月お送りいたします。

さわやか
西村 宗 君



発行／鹿部町 編集／企画管財課 製作／久保内印刷

1月・2月の救急病院

- 1月15日……砂原町国保病院(砂原町) ☎01374(8)3131
- 1月19日……南茅部町国保病院(南茅部町) ☎(2)3511
- 1月26日……リハビリテーションセンター診療所(鹿部町) ☎(7)3321
- 2月2日……砂原町国保病院(砂原町) ☎01374(8)3131
- 2月9日……南茅部町国保病院(南茅部町) ☎(2)3511
- 2月11日……砂原町国保病院(砂原町) ☎01374(8)3131
- 2月16日……南茅部町国保病院(南茅部町) ☎(2)3511

——診療時間は午前9時～午後4時——